

東日本大震災復興支援イベント③ 2015年2月～3月の様子
絵本「きぼうのかんづめ」展

●甘草屋敷子ども図書館第41回企画展●
絵本『きぼうのかんづめ』展

◆2015/2/4(水)～3/29(日)

◆甘草屋敷子ども図書館

原宿、輪王寺、小倉、奈良、大阪、高知、那覇と、全国で行われてきた展覧会を、甲州市で開催します！

この展覧会を通して、震災を忘れないためのお手伝いが少しでもできればうれしいです。

あの日、
津波に流されずに
残ったものがあった。
それは、希望だった。



2011年3月11日、東日本大震災。宮城県・石巻漁港を襲った大津波で、多くのものを失った水産加工会社、木の屋石巻水産。泥の中から出てきたのは、傷だらけになりながらも流されずに残っていた、たくさんの缶詰でした。悲しみをシェアすれば、半分になる。希望をシェアすれば、倍になる。これは、宮城・石巻と東京・経堂の人と人のつながりから生まれた、確かな希望の物語です。

東日本大震災後、さまざまなメディアで取り上げられ注目を集めた宮城県・石巻漁港の木の屋石巻水産の「希望の缶詰」。大津波で傷つき泥だらけになりながらも流されずに残った缶詰を洗って売るという行為は、従業員の皆さんだけでなく、そこに関わる多くの人たちをつなげ、大切なことを教えてくれました。悲しみをシェアすれば、半分になる。希望をシェアすれば、倍になる。分かち合いたい、助け合いたいという思いが、一冊の絵本になったのです。



企画展示の様子



絵作者の宗さんと出版社の方も一緒に展示作業をしてくださいました。



おさんぽにきた保育園児に『きぼうの
かんづめ』読み聞かせを行いました。



2月15日（日）に行われたトークイベントの様子

絵作者の宗誠二郎さん

活動のお話と共に、缶詰のラベルを描くワークショップを開催して下さいました。



文作者のすだやすなりさん

今回の「きぼうのかんづめプロジェクト」の中心となった方で、活動の経緯や様子をお話していただきました。



缶詰ラベルの絵のテーマは「夢や希望」

大好きな魚の絵や、大切な家族の絵、ふるさとの絵。「平和でありますように」という祈り。「アイドルになりたい！」など、具体的な夢を描いてくれた子もいました。



私たちに今できる復興のお手伝い。

- *身近な人が困っていたら助ける。
- *東北の美味しいものを食べる。
- *震災があったことを忘れない。

イベント当日の様子は2015年に峡東CATVにて放送されました。